

# 人文學報

CXX

特集 近代京都と文化

京都大學  
人文科學研究所

2023

# 人文学報

120

特集 近代京都と文化

高木博志 編

京都大学人文科学研究所

2023年2月

## 目 次

### 特集 近代京都と文化

特集「近代京都と文化」にあたって .....	高 木 博 志	1
〈論文〉		
江馬務の〈歴史の可視像化〉論 .....	青 江 智 洋	9
—— 京都画壇と風俗研究会の萃点を論点として ——		
浅井忠の美術教科書 .....	並 木 誠 士	47
—— 洋画指導からデザイン指導へ ——		
「工芸」の岐路 —— 高村豊周・今和次郎・柳宗悦 .....	土 田 眞 紀	73
文化財制度と近代ツーリズム .....	菅 沼 明 正	95
—— 戦前期における京都と奈良の観光と文化財鑑賞 ——		
「朱雀日記」と『京都名勝記』 .....	藤 原 学	131
—— 明治 45 年谷崎潤一郎の京都ガイドブック ——		
明治初期の京都における公家地・所有物の変容 .....	齊 藤 紅 葉	159
—— 岩倉具視, 杉孫七郎, 榎村正直を中心に ——		
1930 年代後半の和紙漉場調査と寿岳文章 .....	玉 城 玲 子	179
〈資料紹介〉		
茨木・千提寺の隠れキリシタン初発見 .....	マルタン・ノゲラ・ラモス	205
—— 1880 年のマラン・プレシ神父の書簡 (翻刻・邦訳・解題) —— (書簡の邦訳 坂口周輔)		
—————		
〈資料紹介〉		
民芸同人・寿岳文章宛水谷良一書簡 (向日庵資料) .....	高 木 博 志	65
「幕末明治巷談絵噺」 .....	齊藤紅葉・桑原優子・林 潔・西脇彩央	1
—— 幕末・維新时期京阪地域の一「風景」——		

## 『人文学報』投稿規定

1. 『人文学報』は、京都大学人文科学研究所が原則として年1回4月に刊行する学術誌で、人文科学諸領域に関する論文、資料紹介、書評などを掲載する。投稿原稿は原則として日本語で書かれ、日本語で初めて公刊されるものとする。
2. 本誌に投稿する資格を持つのは、共同研究班員や受け入れ研究者を含め、京都大学人文科学研究所に制度的に所属する者、および所属した者とする。ただし、編集委員会が適切と判断した場合には、これら以外の執筆者からの投稿も可とすることがある。
3. 投稿原稿の掲載の可否は、編集委員会が指名した専門家による査読にもとづいて、編集委員会が責任をもって最終判断する。編集委員会は、原稿受領後、2ヶ月以内に査読結果を投稿者に通知する。投稿論文は、(A)そのまま掲載、(B)修正のうえ掲載、(C)不可のいずれかに判定される。(B)の判定を受けた投稿原稿が、その後1ヶ月以内に編集委員会の要請を満たす加筆修正を行っていないと判断された場合は、掲載不可となることがある。
4. 投稿希望者は、5月末までに、仮タイトルと400字程度の要旨を編集委員会に提出する。投稿メ切りは8月末日とする。投稿原稿は、『人文学報』編集委員会宛に送付する。とくに枚数の制限を設けないが、論文は12,000～48,000字、書評は4,000～8,000字を目安とする。ただし、他の掲載論文との関係から調整を求めたり、制作実費を申し受ける場合がある。
5. 他雑誌への二重投稿についてはこれを禁ずる。
6. 原稿執筆にあたって、投稿者は後述の『『人文学報』執筆要領』にしたがう。
7. 図版、写真などを掲載する場合は、投稿者の責任において、あらかじめ著作権者から許諾を受けるものとする。
8. 投稿者は、最終原稿の①テキストファイルないしワープロソフトによる文書ファイル、②PDFファイルを編集委員会に提出する。電子データの提出は、電子メールへの添付ないし電子記憶媒体によって行うことができる。
9. 著者による校正は2回とする。
10. 原稿料は支払われない。ただし、希望する著者には本誌1部と抜き刷り30部が無料で提供される。
11. 『人文学報』の掲載原稿について、著者は複製権（電子化する権利）と公衆送信権（公開する権利）に関する許諾を京都大学人文科学研究所に与えたものとする。人文科学研究所は頒布の便を図るために、京都大学学術情報リポジトリを通じて掲載論文等を画像あるいはPDF等の形式で送信することができる。

## 『人文学報』執筆要領

1. 使用言語は原則日本語とし、原稿は A4 サイズ横書きとする。以下は日本語論文を想定した要領である。
2. 論文には、日本語（800 字程度）と欧文（200 語程度）の要旨を添付し、それぞれキーワードを 5 つずつ記す。
3. 注は文末注とし、本文とは頁をあらためて作成する。本文中の注番号は字肩に上付きで、1), 2) などと記す。
4. 本文・引用・文末注などの書式は各専門分野の慣行に従うこととし、特に規定しない。
5. 論文はいくつかのセクションに分け、各セクションの見出しにはアラビア数字で番号を付す。
6. 図表や写真の掲載を希望する際は、図表に関しては PDF ファイルを、写真に関しては、典拠となる電子データを別途提出する。それぞれに通し番号、表題、出典（該当する場合）を明記し、本文中の挿入箇所を通し番号で指示する。
7. 書評の場合は、対象となる著作の著者名、書名（副題、シリーズ名、巻名も含む）、刊行地、出版社、頁数、定価などを冒頭に記す。
8. 他の言語ですでに発表したものと内容が重なる場合は、冒頭の脚注でその旨明記する。
9. 執筆に関して質問があれば、編集委員会に問い合わせる。

『人文学報』編集委員会の宛先

606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学人文科学研究所『人文学報』編集委員会  
電子メール：zinbungakuho@zinbun.kyoto-u.ac.jp

編集委員

高 木 博 志

立 木 康 介

岡 澤 康 浩

人文学報 第120号

(京都大学人文科学研究所紀要 第198冊)

2023年2月25日 印刷  
2023年2月28日 発行 非 売 品

発行所 京都大学人文科学研究所  
京都市左京区吉田本町

印刷所 明文舎印刷株式会社  
印刷者 中村 仁  
京都市南区吉祥院池ノ内町10

# THE ZINBUN GAKUHŌ

JOURNAL OF HUMANITIES

Vol. 120

---

FEBRUARY 2023

---

## CONTENTS

### *Special Issue: Modern Kyoto Culture*

On the Special Issue “Modern Kyoto and Culture” ..... H. TAKAGI

### Articles

‘Visualization of History’ by Tsutomu Ema:

On the Cultural Interaction between Kyoto Painting Circles and  
Fūzoku Kenkyūkai (Society for Changing Customs) ..... T. AOE

Asai Chū’s Art Textbook: From Teaching Western-style Painting to Teaching Design ..... S. NAMIKI

Crossroads in the History of Modern Japanese “Kōgei”:

Takamura Toyochika, Kon Wajirō and Yanagi Muneyoshi ..... M. TSUCHIDA

Cultural Properties and Modern Tourism:

Tourism and Cultural Appreciation in Prewar Kyoto and Nara ..... A. SUGANUMA

*Suzaku Nikki* and *Kyōto Meishōki*:

Tanizaki Jun’ichirō’s 1912 Kyōto Guidebook ..... M. FUJIWARA

Early Meiji Transformations of Aristocrats’ Landholdings and Property in Kyoto:

With a Focus on Iwakura Tomomi, Sugi Magoshichirō, and Makimura Masanao ..... M. SAITŌ

Research on Washi Paper Mills in the Late 1930s and Jugaku Bunshō ..... R. TAMAKI

### Original Sources

The First Discovery of Hidden Christians at Ibaraki-Sendaiji:

An 1880 Letter by Father Marin Plessis (Transcription, Translation  
into Japanese, and Commentary) ..... M. NOGUEIRA RAMOS

Mingei Coterie:

Mizutani Ryōichi’s Letter to Jugaku Bunshō (Kōjitsuan Archive) ..... H. TAKAGI

Bakumatsu-Meiji kōdan ebanashi ..... M. SAITŌ, Y. KUWAHARA, J. LIN and M. NISHIWAKI

Published

by

THE INSTITUTE FOR RESEARCH IN HUMANITIES  
KYOTO UNIVERSITY

ISSN 0449-0274